

第4回基本構想審議会における指摘事項への対応について

資料1-1

第4回会議資料	指摘事項	対応	5/23 修正版 対応箇所
基本構想（素案）P8 取り巻く社会潮流④	「高度情報化社会の進展」に「ICT 技術」とあるが、ICT の T が技術を表すテクノロジーを意味しているため、ICT だけで良いのではないか。	表現を見直します。 （「技術」を削除）	P9
基本構想（素案）P9 取り巻く社会潮流⑤	「多様な性や～共生に対する社会」という文章について、捉え方によっては、交野市がLGBTではない方の立場に立っているようにも取られかねないので、見直しが必要ではないか。	意図がより分かりやすくなるよう、表現を見直します。	P10
基本構想（素案）P12 現状と課題①	「愛着を感じる」と「愛着を持つ」とでは意味合いが違う。誰の目線かということも大事ではあるが、私としては市民に対して愛着を持っていただきたいと考えている。表現について検討いただきたい。	表現を見直します。	P13
基本構想（素案）P12 現状と課題①	「地域のブランド力を高めていく」とあるが、ブランド力を作り、高めていくということが正解ではないか。現状としては、交野市と聞いて連想できるものを皆で作っていく段階なのでは。	表現を見直すとともに、基本計画にも魅力発信について記載する予定です。	P13 及び基本計画
基本構想（素案） P13、15、24 現状と課題②④ まちづくりの目標④	どちらも市民や市民団体との協働が関わってくるが、市民活動の推進や活性化という言葉が入っていない。現在はそういった市民の力が低迷している状況でもあるので、組み込んでおくべきではないか。また、まちづくりの目標④にもこうした市民活動に対する言及を組み込むべきではないか。	市民活動活性化や協働については、現状と課題⑥に記載するとともに、幅広い分野に関わるものであることから、基本姿勢に記載しています。	P18 P26
基本構想（素案）P14 現状と課題③	地域の自治機能の低下や共助の弱体化も懸念されるが、行政として防災に関してどのような対策や体制を取っていくのかについても記載すべきでは。	防災関連施策の内容については、基本計画に記載します。	基本計画

第4回基本構想審議会における指摘事項への対応について

第4回会議資料	指摘事項	対応	5/23 修正版 対応箇所
基本構想（素案）P15 現状と課題④	「ベッドタウン」という言葉は否定的なイメージもあり、あえて用いなくてもよいのではないか。	表現を見直します。 （「ベッドタウン」を削除）	P16
基本構想（素案）P17 現状と課題⑥	他市との差別化を図る観点で、交野市ならではの良さ（自然など）を活かしたまちづくりのビジョンを計画には盛り込んだ方がよいのではないか。	「まちの良さや強みを活かしたまちづくり」については、目標①④に記載しています。	P21、24
基本構想（素案）P17 現状と課題⑥	「公民連携や広域連携など多様なパートナーシップにより課題解決を図る必要がある」と記載されているが少し分かりにくく、もう少し説明を加えた方がよいのではないか。	公民連携・広域連携などの説明を「用語解説」として巻末に付け加えます。（今後も進捗に応じて追記します。）	P32
基本構想（素案）P17 他 現状と課題⑥	各所に「DX」の言葉が使われているが、これは目標を指すものであり、取り入れるものではないため、全体的に見直しを図っていただきたい。	DXに関わる部分の表現を全体的に見直します。	P18 他
基本構想（素案）P20 他 まちづくりの目標	<ul style="list-style-type: none"> ✓ まちづくりの目標が「みんな」という言葉でまとめられているのはとても良いが、結果的に内容がぼんやりとしてしまっており、解釈が難しい。 ✓ まず前提として、「みんな」が誰なのかわかりにくい。「みんな」という言葉を使うのであれば、最初に、それが誰を指すのか説明しても良いのでは。 ✓ まちづくりの目標について、内容がぼやけている印象がある。「みんな」という言葉にこだわらず、もう少し具体的な記述としても良いのでは。 	<p>「みんな」という表現は、市民、地域、事業者、行政など、まちづくりに関わる人々の総称として使用しています。</p> <p>基本構想条例でも、「市民等（＝みんな）」で担い合って自治を営むことが示されています。</p> <p>これらの趣旨が分かりやすくなるよう、「条例の引用」と「みんなの説明」を追記するとともに、関係する文章を見直します。</p>	P3、4 P19 他

第4回基本構想審議会における指摘事項への対応について

第4回会議資料	指摘事項	対応	5/23 修正版 対応箇所
基本構想（素案）P20 まちづくりの目標①	目標①における「みんな」の表現について、子どもを対象としているのか、全世代を対象としているのか分かり難い。	次のとおり表現を見直します。 前) みんながのびのびと学び、みんなで子どもを育むまち 後) みんなで子どもを育み、子どもがのびのびと学ぶまち	P21
基本構想（素案）P21 まちづくりの目標②	目標②の表現について、「笑顔があふれる」というのは結果であるため、文章を「みんなが互いに認め合い、笑顔があふれるまち」と整理した方が良いのでは。	次のとおり表現を見直します。 前) みんなが笑顔にあふれ、互いに認め支え合うまち 後) みんなが互いを認め支え合い、笑顔と元気があふれるまち	P22
基本構想（素案）P22 まちづくりの目標③	目標③は文章だけを読むと共助だけを強調しているような意味に取られかねない。防災などは助け合いだけでは難しいところもあり、「各主体との連携・協力」という言葉の方が適切ではないか。 また、「安心して住み続けられる」という文言に「みんな」をつける方が良いのでは。	「みんな」という表現は、市民、地域、事業者、行政など、まちづくりに関わる人々の総称として使用しています。 意図が分かりやすくなるよう、表現を見直します。	P23
基本構想（素案）P23 まちづくりの目標④	目標④の表現について、「交流が生まれる」だけでは、地域が元気になるというイメージが分かり難い。	次のとおり表現を見直します。 前) みんながつどい、交流が生まれるまち 後) みんながつどい交流し、活力が生まれるまち	P24

第4回基本構想審議会における指摘事項への対応について

第4回会議資料	指摘事項	対応	5/23 修正版 対応箇所
基本構想（素案）P23 まちづくりの目標④	目標④の枠内の二点目、「快適な暮らしを支える生活インフラを～住み続けたいと思えるまちを目指します」については、コンセプトとしてはそぐわないように感じる。内容的には③の方が近いのではないか。	「生活インフラの維持」は、防災の観点からも重要ですが、ここでは快適な暮らしの維持向上という観点から、「整備」も含めたものとして記載しています。意図が分かりやすくなるよう、表現を見直します。	P24
基本構想（素案）P25 ②基本姿勢	この先、世の中でどのようなことが起こるか分からない中で、計画にとらわれることなく、現場で起きたことに対して臨機応変に対応できるような人材や組織を作っていくということを基本姿勢で示すことが重要ではないか。	基本計画期間に生じた出来事については、見直しのタイミングで適宜反映していく予定です。 人材育成・組織機構などの体制については、基本姿勢にて分かりやすく表現するとともに、基本計画においても記載します。	P26 及び基本計画
基本構想（素案）P26 (3)人口の将来展望	「バランスの取れた人口構成」がどういう状況であるかを明記した方が良いのではないか。	意図がより分かりやすくなるよう、表現を見直します。	P27、28